

校異源氏物語・とこなつ

いとあつき日ひむかしのつり殿にいて給ひてすゝみ給ふ中将の君もさふらひ給ふしたしき殿上人あまたさふらひてにしかはよりたてまつれるあゆちかきかはのいしふしやうのものおまゑにてゝうしてまいらすれいの大殿のきむたち中将の御あたりたつねてまいり給へりさうくしくねふたかりつるおりよくものし給へるかなとておほみきまいりひみつめしてすひはむなととりくにさうときつゝくふかせはいとよくふけとも日のとかにくもりなき空のにしひになるほとせみのこゑなともいとくるしけにきこゆれはみつのうへむとくなるけふのあつかはしさかなむらいのつみはゆるされなむやとてよりふし給へりいとかゝるころはあそひなともすさましくさすかにくらしかたきこそくるしけれ宮つかへするわかき人くたへかたからむなをひもとかぬほとよこゝにてたにうちみたれこのころよにあらむことのすこしめつらしくねふたさゝめぬへからむかたりてきかせ給へなにとなくおきなひたる心ちしてせけむのこともおほつかなしやなとの給へとめつらしきことゝてうちいてきこえむものかたりもおほえねはかしこまりたるやうにてみないとすゝしきかうらむにせなかをしつゝさふらひ給ふいかてきゝしことそやおとゝのほかはらのむすめたつねいてゝかしつき給ふなるとまねふ人ありしかはまことにやと弁少将にとい給へはことくしくさまていひなすへきことにも侍らさりけるをこの春のころをひゆめかたりしたまひけるをほのきゝつたへ侍ける女のわれなむかこつへきことあるとなのりいて侍けるを中将のあそむなむきゝつけてまことにさやうにふれはいぬへきしるしやあるとたつねとふらひ侍けるくはしきさまはえしり侍らすけにこのころめつらしきよかたりになむ人くもし侍なるかやうのことにそ人のためをのつからけそむなるわさに侍れるときこゆまことなりけりとおほしていとおほかめるつらにはなれたらむをくるゝかりをしゑてたつね給ふかふくつけきそいとゝもしきにさやうならむものゝくさはひみてまほしけれとなのりもゝのうきゝはと思ふらんさらにこそきこえねさてもゝてはなれたることはあらしらうかはしくとかくまきれ給ふめりしほとにそきよくすまぬ水にやとる月はくもりなきやうのいかてかあらむとほゝゑみての給ふ中将のきみもくはしくきゝ給ふことなれ

はえしもめめたゝす少将と藤侍従とはいとからしとおもひたりあそむやさやうのおちはをたにひろへ人わろきなのゝちのよにのこらむよりはおなしかさしにてなくさめむになてうことかあらむとろうし給ふやうなりかやうのことにてそ
うはへはいとよき御なかのむかしよりさすかにひまありけるまいて中将をいたくはしたなめてわひさせ給ふつらさをおほしあまりてなまねたしとももりきゝ
給へかしとおほすなりけりかくきゝ給につけてもたいのひめ君をみせたらむときまたあなつらはしからぬかたにもてなされなむはやいものきらゝしくか
ひある所つき給へる人にてよしあしきけちめもけさやかにもてはやしまたもて
けちかるむること人にとなるおとゝなれはいかにものしと思らむおほえぬ
さまにてこの君をさしいてたらむにえかろくはおほさしいときひしくもてなし
てむなどおほすゆふつけゆく風いとすゝしくてかへりうくわかき人ゝはおも
いたり心やすくうちやすみすゝまむややうゝかやうのなかにいとはれぬへき
よはひにもなりにけりやとてにしのたいにわたり給へはきむたちみな御をくり
にまいり給ふたそかれときのおほゝしきにおなしなをしともなれはなにとも
わきまへられぬにおとゝひめ君をすこしといて給へとてしのひて少将侍従など
ゐてまうてきたりいとかけりこまほしけにおもへるを中将のいとしほうの人に
てゐてこぬむしんなめりかしこの人ゝはみな思ふ心なきならしなほゝしき
きはをたにまとのうちなるほとはほとにしたかひてゆかしくおもふへかめるわ
さなれはこのいへのおほえうちゝのくたゝしきほとよりはいとよにすきて
ことゝしくなむいひ思なすへかめるかたゝものすめれとさすかに人のすき
こといひよらむにつきなしかしくてものし給ふはいかてさやうならむ人のけ
しきのふかさあさゝをもみむなとさうゝしきまゝにねかひおもひしをほいな
むかなふ心ちしけるなとさゝめきつゝきこへ給ふおまへにみたれかはしきせむ
さいなともうへさせ給はすなてしこのいろをとゝのへたるからのやまとのませ
いとなつかしくゆひなしてさきみたれたるゆふはえいみしくみゆみなたちより
て心のまゝにもおりとらぬをあかすおもひつゝやすらふいふそくともなりな心
もちゐなともとりゝにつけてこそめやすけれ右の中将はましてすこしつま
りて心はつかしきけまさりたりいかにそやをとつれきこゆやはしたなくもなさ
しはなちたまひそなどの給ふ中将の君はかくよきなかにすくれておかしけにな
まめき給へり中将をいとひ給ふこそおとゝはほいなければしりものなくきら
ゝゝしかめる中におほきみたつすちにてかたくなゝりとにやとのたまへはきま
さはといふ人も侍けるをときこえ給ふいてそのみさかなもてはやされんさまは

ねかはしからすた、おさなきとちのむすひをきけん心もとけすとし月へたて給ふ心むけのつらきなりまたけらうなりよのき、み、かろしとおもはれはしらすかほにてこゝにまかせたまへらむにうしろめたくはありなましやなとうめき給ふさはかゝる御心のへたてある御なかなりけりとき、給にもおやにしられたてまつらむことのいつとなきはあはれにいふせくおほす月もなきころなればとうろにおほとなふらまいれりなをけちかくてあつかはしやかゝり火こそよけれど人めしてかゝり火のたいひとつこなたにとめすおかしけなるわこむのあるひきよせ給てかきならし給へはりちにいとよくしらへられたりねもいとよくなれはすこしひき給ひてかやうの事は御心にいらぬすちにやと月ころ思ひおとしきこえけるかな秋のよの月かけす、しきほといとおくふかくはあらてむしのこゑにかきならしあはせたるほとけちかくいまめかしきもの、ねなりことくしきしらへもてなししとけなしやこのものよさなからおほくのおそひもののねはうしをとゝのへとりたるなむいとかしこきやまどことゝはかなくみせてきはもなくしをきたることなりひろくことくにのことをしらぬ女のためとなむおほゆるおなしくは心とゝめてものなどにかきあはせてならひ給へふかき心とてなにはかりもあらずなからまたまことにひきうることはかたきにやあらんたゝいまはこのうちのおとゝになすらふ人なしかしたゝはかなきおなしすかゝきのねによろつのものゝねこもりかよひていふかたもなくこそひゝきのほれとかたりたまへはほのく心えていかてとおほすことなれはいとゝいふかしくてこのわたりにてさりぬへき御あそひのおりなとき、侍なんやあやしき山かつなどの中にもまねふものあまた侍なることなれはをしなへて心やすくやとこそ思ひたまへつれさはすくれたるはさまことにや侍らむとゆかしけにせちに心にいれて思ひ給へれはさかしあつまとそなもたちくたりたるやうなれと御せむの御あそひにもまつふむのつかさをめすは人のくにはしらすこゝにはこれをものゝおやとしたるにこそあめれそのなかにもおやとしつへき御てよりひきとり給へらむは心ことなりなむかしこゝになともさるへからむおりにはものし給ひなむをこのことにておしますなどあきらかにかきならし給はむことやかたからむものゝ上すはいつれのみちも心やすからすのみそあめるさりとつゐにはきゝ給てむかしとてしらへすこしひきたまふことつひいになくいまめかしくおかしこれにもまされるねやいつらむとおやの御ゆかしさたちそひてこの事にてさへいかならむ世にさてうちとけひき給はむをきかむなと思ひゐたまへりぬきかはのせゝのやはらたといとなつかしくうたひたまふおやさくるつまはすこしうちわらひつゝ

わさともなくかきなし給ひたるすかゝきのほといひしらすおもしろきこゆいてひき給へさえは人になむはちぬさうふれむはかりこそ心のうちにおもひてまきらはす人もありけめおもなくてかれこれにあはせつるなむよきとせちにきこえ給へとさるゐなかのくまにてほのかに京ひとゝなのりけるふるおほきみ女をしへきこえければひかことにもやとつゝましくてゝふれ給はすしはしもひき給はなむきゝとる事もやと心もとなきにこの御事によりそちかくゐさりよりていかなる風のふきそひてかくはひゝき侍そとよとてうちかたふき給へるさまほかけにいとつくしけなりわらひ給ひてみゝかたからぬ人のためには身にしむ風もふきそふかしとてをしやり給ふいと心やまし人ゝちかくさふらへはれひのたはふれこともえきこえ給はてなてしこをあかてもこの人ゝのたちさりぬるかないかておとゝにもこの花そのみせたてまつらむよもいとつねなきをとおもふにいにしへもゝのゝつゐてにかたりいて給へりしもたゝいまのことゝそおほゆるとてすこしのたまひいてたるにもいとあはれなり

なてしこのとこなつかしき色をみはもとのかきねを人やたつねむこの事の

わつらはしさにこそまゆこもりも心くるしう思ひきこゆれとの給ふ君うちなき
て

山かつのかきほにおひしなてしこのもとのねさしをたれかたつねんはかな

けにきこえない給へるさまけにいとなつかしくわかやかなりこさらましかはとうちすし給ひていとゝしき御心はくるしきまてなをえしのひはつましくおほさるわたり給ふ事もあまりうちしきり人のみたてまつりとかむへき程は心のおにゝおほしとゝめてさるへきことをしいてゝ御ふみのかよはぬおりなしたゝこの御ことのみあけくれ御心にはかゝりたりなそかくあいなきわさをしてやすからぬものおもひをすらむさ思はしとて心のまゝにもあらはよの人のそしりいはむ事のかるゝしさわかためをはさるものにてこの人の御ためいとおしかるへしかきりなき心さしといふともはるのうへの御おほえにならふばかりは我心なからえあるましくおほしゝりたりさてそのおとりのつらにてはなにはかりかはあらむわか身ひとつこそ人よりはことなれみむ人のあまたか中にかゝつらはむすゑにてはなにのおほえかはたけからむことなることなき納言のきはのふた心なくて思はむにはおとりぬへきことそとみつかからおほしゝるにいとゝおしくて宮大将などにやゆるしてましてもてはなれいさなひとりては思ひもたえなんやいふかひなきにてさもしてむとおほすおりもありされとわたり給ひて御かたちをみ給ひいまは御ことをしへたてまつりたまふにさへことつけてちかやかに

なれより給ふひめ君もはしめこそむくつけくうたてとも思ひ給しかかくてもな
たらかにうしろめたき御心はあらざりけりとやうくめなれていとしもうとみ
きこえ給はすさるへき御いらへもなれくしからぬほとにきこえかはしなとし
てみるまゝにいとあいきやうつきかほりまさり給へれはなをさてもえすくしや
るましくおほしかへすさはまたさてこゝなからかしつきすへてさるへきおり
くにはかなくうちしのひものをもきこえてなくさみなむやくまたよなれぬ
ほとどのわつらはしさこそ心くるしくはありけれをのつからせきもりつよくとも
ものゝ心しりそめいとおしきおもひなくてわか心も思ひいりなはしけくともさ
はらしかしとおほしよるいとけしからぬことなりやいよく心やすからす思ひ
わたらむくるしからむなめにおもひすくさむことのとさまかくさまにもかた
きそよつかすむつかしき御かたらいなりけるうちの大殿はこのいまの御むすめ
のことをとのゝ人もゆるさすかるみいひよにもほきたることゝそしりきこゆと
きゝ給ふに少将のこのついでにおほきおとゝのさることやとふらひ給し事か
たりきこゆれはさかしそこにこそはとしころをとにもきこえぬやまかつのこむ
かへとりてものめかしたつれおさく人のうへもときたまはぬおとゝのこのわ
たりのことはみゝとめてそおとしめたまふやこれそおほえある心ちしけると
の給ふ少将のかのにしのたいにすへ給へる人はいとこともなきけはひみゆるわ
たりになむ侍なる兵部卿宮なという心とゝめての給ひわつらふとかおほろけ
にはあらしとなむ人くをしはかりはへめると申給へはいてそれはかのおとゝ
の御むすめとおもふはかりのおほえのいといみしきそ人のこゝろみなさこそあ
るよなめれかならずさしもすくれし人くしきほとならはとしころきこえなま
しあたからおとゝのちりもつかすこのよにはすき給へる御身のおほえありさまに
おもたゝしきはらにむすめかしつきてけにきすなからむとおもひやりめてたき
かものしたまはぬはおほかたのこのすくなくて心もとなきなめりかしおとりは
らなれとあかしのおもとのうみいてたるはしもさるよになきすくせにてあるや
うあらむとおほゆかしそのいまひめ君はようせすはしちの御こにもあらしかし
さすかにいとけしきある所つき給へる人にもてない給ふならむといひをとし
給さていかゝさためらるなるみこゝそまつはしえたまはむもとよりとりわきて
御なかよし人からもきやうさくなる御あはひともならむかしなどの給ひてはな
をひめ君の御ことあかすくちおしかやうに心にくゝもてなしていかにしなさむ
なとやすからすいふかしからせましものをとねたければくらゐさはかりとみさ
らむかきりはゆるしかたくおほすなりけりおとゝなどもねんころにくちいれか

へさひ給はむにこそはまくるやうにてもなひかめとおほすにおとこかたはさらにいられきこえ給はす心やましくなむとかくおほしめくらすまゝにゆくりもなくかるらにはひわたり給へり少将も御ともにまいり給ふひめ君はひるねし給へるほとなりうすものゝひとへをきたまひてふし給へるさまあつかはしくはみえすいとらうたけにさゝやかなりすぎ給へるはたつきなといとうつくしけなるてつきしてあふきをも給へりけるなからかひなをまくらにてうちやられたる御くしのほといとなくこちたくはあらねといとをかしきすゑつきなり人ゝものゝうしろによりふしつゝうちやすみたれはふともおとろい給はすあふきをならし給へるになに心もなくみあけ給へるまみらうたけにてつらつきあかめるもおやの御めにはうつくしくのみみゆうたゝねはいさめきこゆるものをなとかいとものはかなきさまにてはおほどのこもりける人ゝもちかくさふらはてあやしや女は身をつねに心つかいしてまもりたらむなんよかるへき心やすくうちすてさまにもてなしたるしなゝき事なりさりとていとさかく身かためてふとうのたらにのみていむつくりてゐたらむもにくしうつゝの人にもあまりけとをくものへたてかましきなとけたかきやうとても人にくゝ心うつくしくはあらぬわさなりおほきおとゝのきさきかねのひめ君ならはしたまふなるをしへはよろつこのことにかよはしなためてかとくゝしきゆへもつけしたとくゝしくおほめくこともあらしとぬるらかにこそをきて給ふなれけにさもあることなれと人として心にもするわさにもたてゝなひくかたはかたとあるものなれはおひいて給ふさまあらむかしこの君のひとゝなり宮つかへにいたしたて給はむよのけしきこそいとゆかしけれなどのたまひて思やうにみたてまつらむとおもひしすちはかたうなりにたる御身なれといかて人わらはれなすしなしたてまつらむとなむ人のうへのさまゝなるをきくことにおもひみたれ侍心みことにねんころからむ人のねき事になしはしなひき給ひそ思さま侍なといとらうたしとおもひつきこえ給ふむかしはなに事もふかくもおもひしらてなかゝさしあたりていとをしかりしことのさはきにもおもなくてみえたてまつりけるよいまそおもひいつるにむねふたかりていみしくはつかしき大宮よりもつねにおほつかなき事をうらみきこえ給へとかくの給ふるかつゝましくてえわたりみたてまつり給はすおとゝこのきたのたいのいま姫君をいかにせむさかしらにむかへゐてきて人かくそしるとてかへしをくらむもいとかるかるしくものくるをしきやうなりかくてこめをきたれはまことにかしつくへき心あるかと人のいひなすなるもねたし女御の御方などにましらはせてさるおこのものにしないでむ人のいとかたは

なるものにいひおとすなるかたちはたいときいふはかりにやはあるなどおほし
て女御の君にかの人まいらせむみるしからむことなどはおいしらへるねうは
うなどしてつゝますいひをしへさせ給ひて御らむせよわかき人／＼のことくさ
にはなわらはせさせ給ふそうたてあはつけきやうなりとわらひつゝきこえ給ふ
などかいとさことのほかには侍らむ中将などのいになく思ひ侍けんかねこと
にたらすといふはかりにこそはゝへらめかくの給ひさはくをはしたなう思はる
ゝにもかたへはかゝやかしきにやといとはつかしけにてきこえさせ給ふこの御
ありさまはこまかにおかしけさはなくていとあてにすみたるものゝなつかしき
さまそひておもしろきむめの花のひらけさしたるあさほらけおほえてのこりお
ほかりけにほゝゑみ給へるそ人にことなりけるとみたてまつり給ふ中将のいと
さいへと心わかきたとりすくなきになと申給ふもいとをしけなる人のみおほえ
かなやかてこの御方のたよりにたゝすみおはしてのそき給へはすたれたかくを
しはりてこせちの君とてされたるわか人のあるとすくろくをそうち給ふてをい
とせちにをしもみてせうさい／＼とこふこゑそいとしたときやあなうたてとお
ほして御ともの人のさきほふをもてかきせいし給ふてなをつまとのほそめなる
よりさうしのあきあひたるをみいれ給ふこのいともはたけしきはやれる御か
へしや／＼とゝうをひねりてとみにうちいてすなかにおもひはありやすらむい
とあさえたるさまともしたりかたちはひちゝかにあい行つきたるさましてかみ
うるはしくつみかろけなるをひたいのいとちかやかなるとこゑのあはつけさと
にそこなはれたるなめりとりたてゝよしとはなけれどこと人とあらかふへくも
あらずかゝみにおもひあはせられたまふにいとすくせ心つきなしかくてももし
給ふはつきなくうゑうゑしくなとやあることしけくのみありてとふらひまうて
すやとの給へはれいのいとしたにてかくてさふらふはなにのもの思ひか侍ら
むとしころおほつかなくゆかしく思ひきこえさせし御かほつねにえみたてまつ
らぬはかりこそてうたぬ心ちしはへれときこえ給ふけにみにちかくつかふ人も
おさ／＼なきにさやうにてもみならしたてまつらんとかねてはおもひしかとえ
さしもあるましきわさなりけりなへてのつかうまつり人こそとあるもかゝるも
をのつからたちましらひて人のみゝをもめをもかならずしもとゝめぬものなれ
は心やすかへかめれそれたにその人のむすめかの人のことしらるゝきはになれ
はおやはらからのおもてふせなるたくひおほかめりましてとの給ひさしつる御
けしきのはつかしきもしらすなにかそはこと／＼しくおもひ給ひてましらひは
へらはこそところせからめおほみおほつほとりにもつかうまつりなむときこえ

給へはえねんし給はてうちわらひ給ひてにつかはしからぬやくなゝりかくたま
さかにあへるおやのけうせむの心あらはこのものゝたまふこゑをすこしのとめ
てきかせたまへさらはいのちものひなむかしとおこめいたまへるおとゝにてほ
ゝゑみてのまふしたの本上にこそは侍らめおさなく侍し時たにこはゝのつねに
くるしかりをしへ侍しめうほうしのへたうたいとこのうふやに侍けるあへもの
となんなけき侍たうひしいかてこのしたときやめはへらむと思ひさはきたるも
いとけうやうの心ふかくあはれなりとみ給ふそのけちかくいりたちたりけむた
いとこゝそはあちきなかりくれたゝそのつみのむくひなゝりをしことともりと
そたいそうそしりたるつみにもかすへたるかしとの給ひてこなからはつかしく
おはする御さまにみえたてまつらむこそはつかしけれいかにさためかくあや
しきはひもたつねすむかへよせけむとおほし人ゝもあまたみつきいひちら
さんことゝおもひかへし給ふものから女御さとのもし給ふときゝわたりま
いりて人のありさまなともみならひ給へかしことなることなき人もをのつから
人にましらひさるかたになれはさてもありぬかしさる心してみえたてまつりた
まひなんやとの給へはいとうれしき事にこそ侍なれたゝいかてもゝ御方ゝ
にかすまへしろしめされんことをなんねてもさめてもとしころなにことを思た
まへつるにもあらず御ゆるしたに侍らはみつをくみいたゝきてもつかうまつり
なんといとよけにいますこしさえつれはいふかひなしとおほしていとしかおり
たちてたきゝひろい給はすともまいり給ひなたゝかのあへものにしけんのり
のしたにとをくはとおこことにの給ひなすをもしらすおなしき大臣ときこゆる
中にもいときよけにものゝしくはなやかなるさましておほろけの人みえにく
き御けしきをもみしらすさていつか女御とのにはまいり侍らんするときこゆれ
はよろしきひなどやいふへからむよしことゝしくはなにかはさ思はれはけふ
にてもとの給ひすてゝわたり給ひぬよき四位五位たちのいつきゝこえてうちみ
しろき給にもいとかめしき御いきをいなるをみをくりきこえていてあなめて
たの我おやゝかゝりけるたねなからあやしきこいへにおひいてけることゝの給
ふこせちあまりことゝしくはつかしけにそおはするよろしきおやの思ひかし
つかむにそたつねいてられ給はましといふもわりなしれいの君の人のいふこと
やふり給ひてめさましいまはひとつくちにことはなませられそあるやうあるへ
き身にこそあめれとはらたち給かほやうけちかくあひきやうつきてうちそほれ
たるはさるかたにおかしくつみゆるされたりたゝいとひなひあやしきしも人の
なかにおひいて給へれはものいふさまもしらすことなるゆへなきことはをもこ

ゑのとやかにをしゝつめていひいたしたるはうちきゝみゝことにおほえおかし
からぬうたかたりをするもこゑつかひつきしくてのこりおもはせもとすゑ
おしみたるさまにてうちすむしたるはふかきすち思ひえぬほどのうちきゝには
おかしかなりとみゝもとまるかしいと心ふかくよしあることをいひゐたりとも
よろしき心ちあらむときこゆへくもあらすあはつけきこはさまにのたまひいつ
ることはこはくしくことはたみてわかまゝにほこりならひたるめのとのふと
ころにならひたるさまにもてなしいとあやしきにやつるゝなりけりいといふか
ひなくはあらずみそもしあまりもとすゑあはぬうたくちとくうちつゝけなとし
給ふさて女御とのにまいれとの給つるをしふしふなるさまならはものしくもこ
そおほせよさりまうてむおとゝの君天下におほすともこの御方くゝのすけなく
し給はむにはとのゝうちにはたてりなんはやとの給ふ御おほえの程いとからら
かなりやまつ御ふみたてまつり給あしかきのまちかきほとにはさふらいなから
いまゝてかけふむはかりのしるしも侍らぬはなこそそのせきをやすえさせ給へら
むとなんしらねともむさしのといへはかしこけれどもあなかしこやくゝとてむ
かちにてうらにはまことやくれにもまいりこむと思ふ給へたつはいとふにはゆ
るにやいてやくゝあやしきはみなせかはにをとてまたはしにかくそ

くさわかみひたちのうらのいかゝさきいかてあひみんたこのうらなみおほ

かはみつのとあをきしきしひとかさねにいとさうかちにいかれるてのそのすち
ともみえすたゝよひたるかきさまもしもなかにわりなくゆへはめりくたりのほ
とはしさまにすちかひてたうれぬへくみゆるをうちゑみつゝみてさすかにいと
ほそくちひさくまきむすひてなてしこの花につけたりひすましわらはしもいと
なれてきよけなるいまゝいりなりけり女御の御方の大はむ所によりてこれまい
らせ給へといふしもつかへみしりてきたのたいにさふらふわらはなりけりとて
御ふみとりいるたいふの君といふもてまゝいりてひきときてこらむせさす女御
ほゝゑみてうちをかせ給へるを中納言の君といふちかくいてそはくゝみけりい
といまめかしき御ふみのけしきにもはへめるかなとゆかしけに思ひたればさう
のもしはえみしらねはにやあらむもとすゑなくもみゆるかなとて給へりかへり
ことかくゆへゆへしくかゝすはわろしとやおもひおとされんやかてかき給へと
ゆつり給ふもていてゝこそあらねわかき人はものおかしくてみなうちわらひぬ
御かへりこへはおかしきことのすちにのみまつはれてはへめれはきこえさせに
くゝこそせむしかきめきてはいとおしからむとてたゝ御ふみめきてかくちかき
しるしなきおほつかなさはうらめしく

ひたちなるするかのうみのすまの浦になみたちいてよはこさきの松とかき

てよみきこゆれはあなうたてまことに身つからのにもこそいひなせとかたはら
いたけにおほしたれとそれはきかむ人わきまへ侍なむとてをしつゝみていたし
つ御かたみておかしの御くちつきやまつとのたまへるをとていとあまえたるた
きものゝかをかへすかへすたきしめ給へりへにといふものいとあからかにか
いつけてかみけつりつくろひ給へるさるかたににきはゝしくあひきやうつきた
り御たいめんのほとさしすくしたることもあらむかし